パラグアイ経済（２０１４年１０月）

概要

（１）国内経済

●１日，中銀は２０１４年のＧＤＰ成長予測を当初の４．８％から４．０％に下方修正した。

●１３日，ヘルマン・ルイス・アベイロ・パラグアイ農村地域協会（ARP）総裁は，パラグアイの牛肉輸出量（重量）につき，２０１７年または２０１８年にウルグアイを抜いて世界第６位となる見込みである旨述べた。

●１７日，中銀は，本年の消費者物価指数によるインフレ率が３～４％程度に留まる見込である旨公表した。

●２０日，公共事業通信省は，プレジデント・エナジー社がボケロン県ピリトゥ区においてボーリング調査を行っているラパチョ試掘井において原油鉱床を発見したことを公式発表した。

（２）対外経済

●２日，当地をマレーシア外相として初めて訪問したアマン・マレーシア外相が，カルテス大統領を表敬した後，ロイサガ外相と会談した。

●７～１０日，カルテス大統領は，台湾を公式訪問し，馬英九台湾総統との会談等を実施した。なお，同会談後に署名された両国共同声明において，両国首脳は，両国間貿易及び投資促進の重要性を強調した。

●２７日，アクアムンド社は，当国で生産されたプレジャーボート（スポーツフィッシング用）を日本に向けて初輸出した。

●２８日，張向晨（Zhang Xiangchen）中国商務部部長助理をはじめ関係当局及び複数の同国企業から成る代表団がレイテ・パラグアイ商工相らと会合を行った。

１　国内経済

（１）チャコ地方における原油鉱床の発見

●２０日，公共事業通信省は，法律第３４７９／０８号によりボケロン県ピリトゥ区における（ボーリング調査のための）権限を付与されているイギリス資本のプレジデント・エナジー社が，ラパチョ試掘井の深度約３，９００ｍ地点（デボン紀の砂岩層内）において原油鉱床を発見したことを公式発表した。なお，右調査は継続中であり，パラグアイ政府は本件情報の取扱いを慎重に行う方針である。

（２）国内インフラへの投資

●１３日，ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ECLAC）は，調査レポート「南米における経済インフラ格差及び投資」を公表した。なお，右レポートにおいて，パラグアイのインフラに対する投資額の対ＧＤＰ比が，中南米地域１５カ国において最も小さいとの結果が示された。

（３）その他投資関連

●中銀は，本年１－９月期における銀行及び信用金庫（フィナンシエラ）における金融ビジネス関連の利益が昨年同期比で１８．５％増加し約３４０百万ドルに達した旨公表した。

●２４日，サン・ロレンソ市に在るピネド・ショッピングで米大手ファーストフードチェーンのケンタッキーフライドチキン国内１号店がオープンした。今後数ヶ月以内に更に２店舗をオープンする予定であり，これら３店舗への投資額は２百万ドルとなる見込み。

●１１月，ロンドン発のフランチャイズHard Rock Cafe（アメリカンレストラン）がアスンシオン市中心部に所在するホテル・グアラニー内にオープンする予定。

（４）農牧関連

●１３日，ヘルマン・ルイス・アベイロ・パラグアイ農村地域協会（ARP）総裁は，パラグアイの牛肉輸出量（重量）につき，２０１７年または２０１８年にウルグアイを抜いて世界第６位となる見込みである旨述べた。なお，米農務省（USDA）によれば，２０１４年の各国の牛肉輸出（重量）は，第１位がブラジル（２，０３０千トン），第２位がインド（１，８５０千トン），第３位がオーストラリア（１，７７５千トン），第４位が米国（１，１７９千トン），第５位がニュージーランド（５７０千トン），第６位がウルグアイ（３８５千トン），第７位がパラグアイ（３７５千トン）となる見込み。

●２１日，ヘルマン・ルイス・アベイロ・パラグアイ農村地域協会（ARP）会長は全米肉牛生産者・牛肉協会と豪州肉牛生産者協議会，ビーフアンドラム・  
ニュージーランド，全国畜産団体連盟（メキシコ），カナダ肉牛生産者協会で構成される「５カ国  
牛肉同盟」へのパラグアイのオブザーバーとしての加入が同同盟の本年年次会合において決定されることが見込まれ，右は当国を世界レベルで優良な牛肉生産国として当国を位置づけるものであり，また同同盟への加入の利点として牛の品種等に関する遺伝子工学等の最新の技術，技術革新及び右適用等につき情報を交換できること等が挙げられる旨述べた。

●２７～２８日に在カラカス・パラグアイ大使館が主催した「いかにパラグアイとビジネスするか」と題された企業会合に際して，パラグアイ産牛肉・豚肉・鶏肉のベネズエラへの輸出を認可する協定に両国の家畜衛生当局が署名した。

（５）インフレ率，ＧＤＰ成長率，為替相場，財政状況等

●１日，中銀は２０１４年のＧＤＰ成長予測を当初の４．８％から４．０％に下方修正した。なお，同銀行による南米各国の成長予測は，ボリビアが５．２％，コロンビアが４．８％，ペルーが３．６％，ウルグアイ２．３％，チリ２．０％，ブラジルが０．３％，アルゼンチンが－１．７％，ベネズエラ－３．９％。

●中銀は，２０１４年１－９月期の総輸入額が前年比－１．３％となった旨公表した。同銀によれば機械，機器及び原動機の輸入が大きく減少した。

●７日，大蔵省は，Ucceli・J.P.モルガン新興マーケット調査常務執行役員がパラグアイの財政が健全で好ましい状況にある旨述べたと同省プレスリリースを通じて公表した。

〈為替相場及び物価〉

●１日，中銀は，消費者物価指数による本年９月の月間インフレ率が０．０％（７月－０．３％，８月－０．４％），年間累積インフレ率が４．１％であり安定して推移している旨公表した。

●４日，中銀はドル高傾向を抑制するため，９月３０日から１０月３日にかけ約１８百万ドルのドル売り介入を実施した旨公表した。

●１４日，フェルナンデス中銀総裁は，大統領府における会合において，米国経済の回復によるドル高基調につき，通貨グアラニーも右影響を受けているものの，まだ本年年始の１ドル＝４７００グアラニー（ドル売り）の水準を超えていないこと，またパラグアイはこうした状況をコントロールするため外貨準備等十分に備えてきていることから，パニックになるような状況ではない旨説明した。

●１６日，中銀はドル高傾向を抑制するため，１５日に約１４百万ドルのドル売り介入を実施した旨公表した。

●１７日，中銀は，記者会見において，本年の消費者物価指数によるインフレ率はドル高の影響が懸念されるものの，３～４％程度に留まる見込である旨公表した。

（６）貿易・税関・密輸関連

●７日，ビジャ・アジェス市において公共事業通信省のロゴマークが入ったトラックから３，０００トンの砂糖が押収された。同省は右トラックの運転手は同省の職員ではなく，事件について調査するとしている。

対外経済

（１）対日関係

●２７日，アクアムンド社は，天候上の理由から当初予定よりも４ヶ月遅れたものの，当国で生産されたプレジャーボート（生産コスト約１０万ドル，スポーツフィッシング用）を日本に向けて初輸出した。

（２）対外関係

〈カルテス大統領の台湾訪問〉

７～１０日，カルテス大統領は，台湾を公式訪問し，馬英九台湾総統との会談等を実施した。なお，同会談後に署名された両国共同声明において，両国首脳は，両国間貿易及び投資促進の重要性を強調した。

〈アマン・マレーシア外相の当国訪問〉

２日，当地をマレーシア外相として初めて訪問したアマン・マレーシア外相は，大統領府においてカルテス大統領を表敬した。同日午後，ロイサガ外相が同外相と会談し，その後双方の担当者を含めた拡大会合が行われ，二国間関係及び国際場裡における協力につき，幅広く協議が行われた。同拡大会合後に両国外相間共同声明の発出及び共同記者発表が行われ，ロイサガ外相は，カルテス大統領に対するマレーシア公式訪問にかかる招待が伝達された旨述べるとともに，今後，経済，政治，学術分野など広範なテーマを扱う両国外務省間協議メカニズムを構築することで一致した旨述べた。

〈中国からの代表団の訪問〉

２８日，張向晨（Zhang Xiangchen）中国商務部部長助理をはじめ関係当局及び複数の同国企業から成る代表団がレイテ・パラグアイ商工相らと会合を行い，主に農牧産品，物流及びインフラ整備に関するパラグアイの投資等について意見を取り交わした。また翌２９日，上記代表団はパラグアイ農村地域協会（ARP）と会合を行い，ARP側より経済や牧畜業に関するプレゼンテーションを実施した後，ブラジルを通過しない形での大豆の中国本土への直接輸入について議論を行った。その後，張部長助理はリゴベルト・ガウト外務副大臣（経済担当）と面談を行った。

〈ブラジルによるメルコスール構造格差是正基金の事業未承認問題〉

３０日，カルテス大統領は自信のツイッターのアカウントにおいて，メルコスール構造格差是正基金（FOCEM）によるコスタネラ２（アスンシオン川流域北部開発計画）に対する支出につきブラジル政府の承認が得られた旨公表した。

〈その他〉

１１日，ロハス大蔵相が米国のEmerging Markets, News, analysis and opinion誌において２０１４年のラテンアメリカ最優秀蔵相に選ばれた旨同誌ウェブページにて公表された。(了)